

令和6年度

長原小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自分の思いや考えを伝えて、主体的に学び行動する子どもの育成
～言語活動の充実をはかり、さらなる深い学びをめざして～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

尾形 徳康

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修、児童や保護者のアンケートにより、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個別の指導や少人数での学習を重ねた結果、基礎的基本的な知識・技能の定着がはかれている。 ●時間の経過とともに、定着率が下がり、単元によっては、目標値に達していない児童がいる。	・当該学年での算数・国語・社会・理科における基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている。 ・身につけた知識や技能を積極的に他の学習や、生活の場面で活用することができる。	・教科ごとに、教師間で児童の課題について綿密に話し合いをもち、一人ひとりに適切な教科指導を行う。 ・Eライブラリーを活用する等、個別に学習できる場面を設定する。	・図形の構成要素の概念や数直線での大きさの理解が不十分であるので、量感や図形感覚が養われるように、体験的な数学的活動を取り入れていく。	・各教科における課題達成状況は、90%以上が多かったが、単元の内容によっては不十分なところもあった。 ・教科等で身につけた知識や技能を様々な学習や生活の場で生かすことができた。	・児童一人一人の資質・能力・課題について、しっかりと見つめ直し、さらにより良い授業改善を図ることで、すべての単元において、90%以上の課題の習熟を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを基本的な文型や話し方に沿って、順序立てて発表することができる。 ●自分の考えを相手に応じて分かりやすく伝えたり、相手の意見を聞いて新しい考えを想像したりすることに課題がある。	・必要な情報を正確に聞き取り、根拠をもって自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 ・学習の習得・探究・活用の場面において、ICT機器等を適切に活用し、言語活動をより実践的なものに行うことができる。	・ICT等を活用し、自分と相手の思いや考えを比較したり、考えを深める機会を多く設ける。 ・「聞きたい」「伝えたい」と思う学習活動(ペア学習やグループ学習)や交流学习等で表現する実の場を増やす。	・情報の的確な読み取りや取捨選択による理解が不十分であるので、ICT等を活用を増やしたり、生成AIも取り入れて、比較・分析能力を高める。	・ICT(生成AI等)を積極的に活用し、自分の考えを深めたり、多様な意見にふれたりすることができ、自分の考えや意見を積極的に伝えることができた。 ・生成AIで、得た情報などを取捨選択しながら、より良い活動につなぐことができた。	・ICT(生成AI)の活用で表現力や情報処理能力の育成を図るだけでなく、思考力や判断力も高められるような教材作りや体験の場作りをする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分に必要な内容を考えながら主体的に取り組むことができる。 ●自分が興味をもつ内容について、さらに深く学んだり、自ら課題を設定して計画的に意欲的に学習を進めたりすることに課題がある。	・自分のめあてを明確にもち、より高い目標をもって主体的に課題に取り組むことができる。 ・自分の状況を振り返りながら課題と向き合い、計画的に解決策を考えたり、意欲的に課題に取り組めたりすることができる。	・ICT機器等を主体的に、持続的に児童が使うことで、自分の目標や課題を明確にし、より高い目標に挑戦することができるように支援する。 ・「振り返り」や「まとめ」の場面で、児童がタブレットを用いて、自分の課題に向き合う場面を設け、自分の考えをまとめたり、深めたりできるようにする。	・児童一人一人が、自分の目標を項目ごと、学期ごとに反省や目標の見直しをしていき、具体的・持続的に目標に向かって進むことができるようにする。	・自分の目標について、より高い明確な目標をもつことができ、主体的に学習に取り組む姿が見られた。 ・「振り返り」や「まとめ」、「復習」などいろいろな場面で、ICT等を活用することができた。	・最高学年として、中学校に向けてより主体的に課題や学習に取り組めるようなカリキュラムマネージメントに努める。

令和6年度 学力向上ロードマップ

